



2025年3月期 決算報告

2025年5月8日

1. 2025年3月期 決算報告

2. 2026年3月期 通期見通し

2025年3月期 通期：ポイント

	売上収益	営業利益	当期利益*
通期実績	7,152億円	24億円	61億円
前年比	▲20億円	▲373億円	▲264億円
前回予想比	▲48億円	▲166億円	▲99億円

通期実績 前年比

- 精機事業やコンポーネント事業の半導体関連ビジネスの販売減少を、映像事業やヘルスケア事業の販売増加と円安効果では補いきれず、減収
- 半導体関連ビジネスの減収に加え、一時費用**（272億円）の発生により、減益

前回予想比 (2/6)

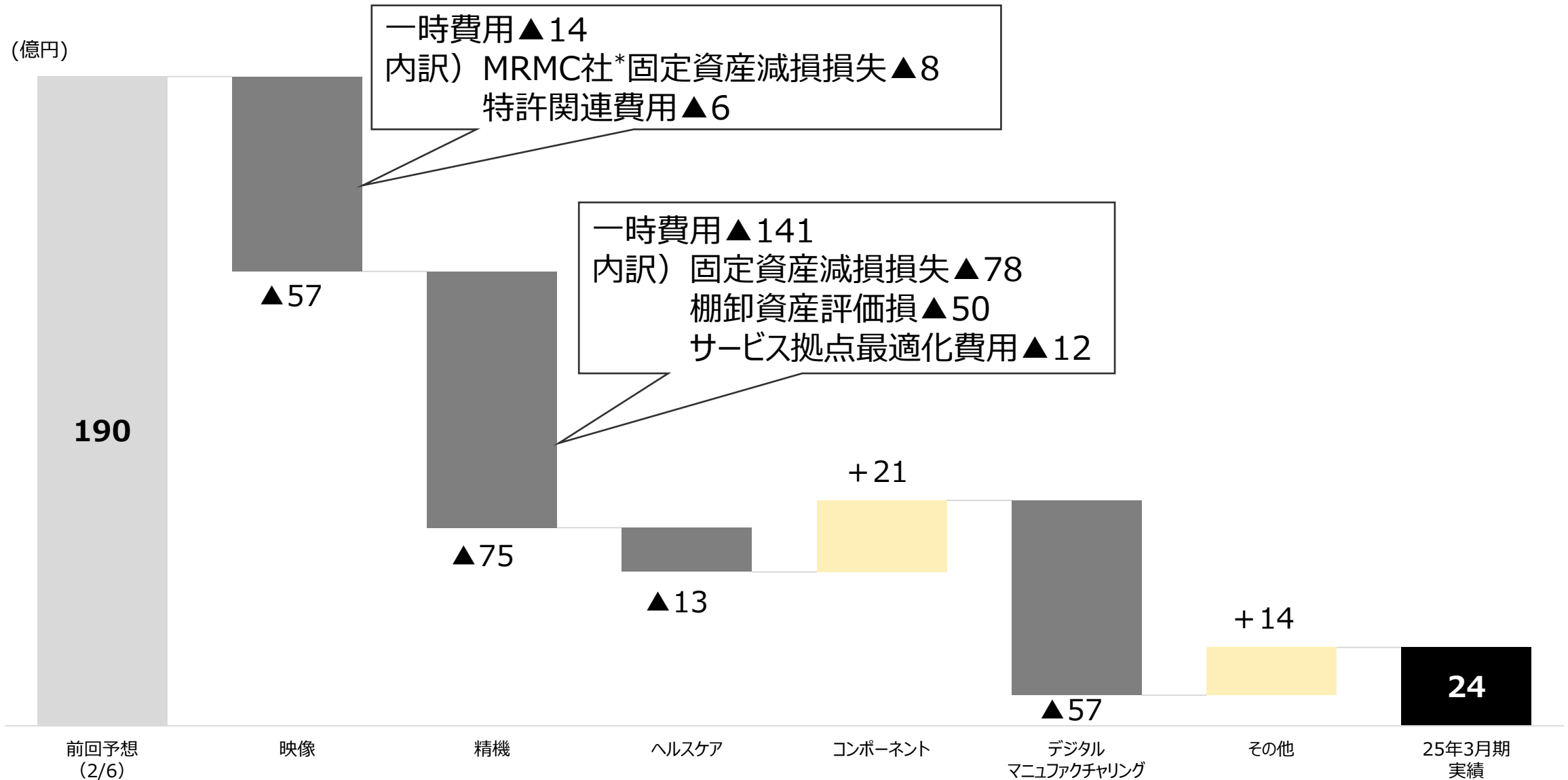
- 精機事業・コンポーネント事業では販売計画を達成した一方、映像事業やデジタルマニュファクチャリング事業の計画未達により、売上収益は下振れ
- 売上収益の下振れに加え、主に精機事業における一時費用**（固定資産減損損失、棚卸資産評価損、サービス拠点最適化費用）が発生したことにより、営業利益は大きく下振れ

株主還元

- 期末配当金25円、年間配当金50円（前年据え置き、予想比▲5円）
- 自己株式の取得及び消却：
バランスシート効率化による資金を活用し、300億円の自己株式取得を計画通り実施
取得した全株式を2025年3月31日に消却
取得期間 2024年11月8日～2025年3月14日

* 親会社の所有者に帰属する当期利益 ** 一時費用の詳細金額については28ページ参照
注：本資料で使用している数値は、億円未満は切り捨て

前回予想（2/6）からの営業利益の変動要因



* Mark Roberts Motion Control社：2016年に買収。主な事業内容は、映像機器のロボット制御ソリューションに関する装置の開発、製造、販売およびレンタル

2025年3月期 通期：財務ハイライト

単位：億円	24年3月期	前回予想	25年3月期	前年比		前回予想比	
	実績	(2/6)	実績	増減額	増減率	増減額	増減率
売上収益	7,172	7,200	7,152	▲20	▲0.3%	▲48	▲0.7%
営業利益	397	190	24	▲373	▲93.9%	▲166	▲87.3%
営業利益率	5.5%	2.6%	0.3%	▲5.2P		▲2.3P	
税引前利益	426	220	45	▲381	▲89.4%	▲175	▲79.4%
税引前利益率	5.9%	3.1%	0.6%	▲5.3P		▲2.5P	
当期利益*	325	160	61	▲264	▲81.2%	▲99	▲61.7%
当期利益率	4.5%	2.2%	0.9%	▲3.6P		▲1.3P	
FCF	▲106	-	▲217	▲111	-	-	-
ROE	5.0%	2.4%	0.9%	▲4.1P	-	▲1.5P	-
EPS	94.03円	46.63円	17.86円	▲76.17円	-	▲28.77円	-
年間配当	50円	55円	50円	±0円	-	▲5円	-
為替：USD	145円	151円	153円	売上収益への影響			
				+215		+47	
ユーロ	157円	162円	164円	営業利益への影響			
				+51		+8	

営業CFは482億円となり二期連続増加も、RED社買収・本社移転に関わる支出があり、FCFはマイナス

* 親会社の所有者に帰属する当期利益

注：25年3月期のEPSの前提となる発行済株式数：約342.8百万株

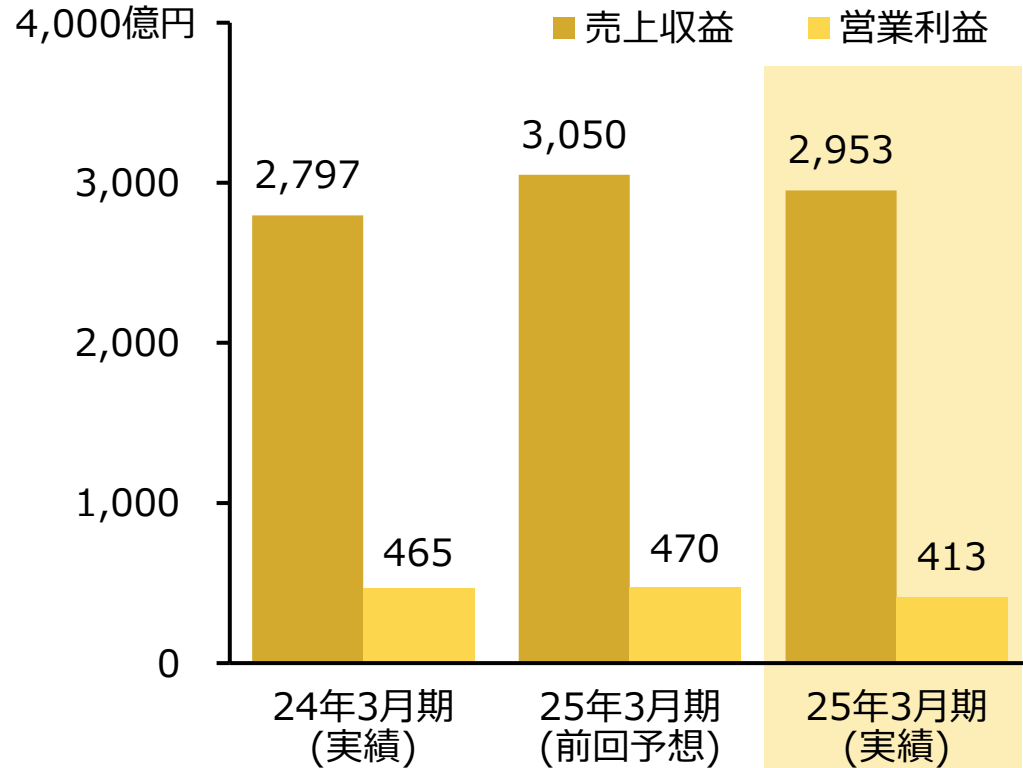
2025年3月期 通期：セグメント別業績

単位：億円

		24年3月期	前回予想	25年3月期	前年比		前回予想比	
		実績	(2/6)	実績	増減額	増減率	増減額	増減率
映像事業	売上収益	2,797	3,050	2,953	+156	+5.6%	▲97	▲3.2%
	営業利益	465	470	413	▲52	▲11.3%	▲57	▲12.1%
	営業利益率	16.6%	15.4%	14.0%	▲2.6P		▲1.4P	
精機事業	売上収益	2,193	1,950	2,019	▲174	▲7.9%	+69	+3.6%
	営業利益	151	90	15	▲136	▲89.8%	▲75	▲82.8%
	営業利益率	6.9%	4.6%	0.8%	▲6.1P		▲3.8P	
ヘルスケア事業	売上収益	1,078	1,150	1,164	+86	+7.9%	+14	+1.3%
	営業利益	53	80	67	+14	+25.0%	▲13	▲15.8%
	営業利益率	5.0%	7.0%	5.8%	+0.8P		▲1.2P	
コンポーネント事業	売上収益	859	730	741	▲118	▲13.7%	+11	+1.6%
	営業利益	151	50	71	▲80	▲52.5%	+21	+43.7%
	営業利益率	17.6%	6.8%	9.7%	▲7.9P		+2.9P	
デジタル マニファクチャリング事業	売上収益	210	280	233	+23	+11.2%	▲47	▲16.6%
	営業利益	▲140	▲95	▲152	▲12	-	▲57	-
	営業利益率	▲67.1%	▲33.9%	▲65.2%	+1.9P		▲31.3P	
その他 (含、全社費用等)	売上収益	32	40	40	+8	+21.7%	±0	+0.4%
	営業利益	▲283	▲405	▲391	▲108	-	+14	-
連結	売上収益	7,172	7,200	7,152	▲20	▲0.3%	▲48	▲0.7%
	営業利益	397	190	24	▲373	▲93.9%	▲166	▲87.3%
	営業利益率	5.5%	2.6%	0.3%	▲5.2P		▲2.3P	

注：24年3月期実績はセグメント変更による組み替え後の数値。セグメント変更については41ページ参照

2025年3月期 通期：映像事業



- 前年比：売上収益 +156億円、営業利益 ▲52億円
- 前回予想比：売上収益 ▲97億円、営業利益 ▲57億円

【前年比】

- レンズ交換式デジタルカメラ市場は中国を中心に拡大
- 新製品（Z6III、Z50II）を中心にミラーレスカメラおよび交換レンズの販売数量が増加したことに加え、円安効果もあり増収
- 低調なシネマ業界の影響を受けたRED社の営業赤字に加え、MRMC社*固定資産減損損失等の一時費用を計上し、減益

【前回予想比】

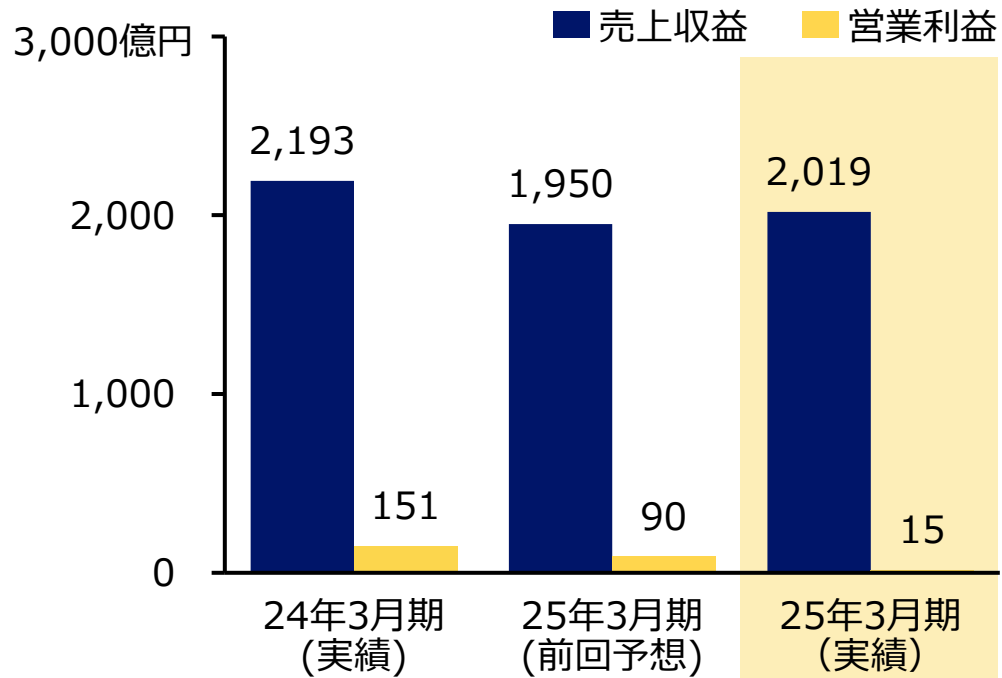
- 製品ミックスの変化により交換レンズの販売が計画未達となり、売上収益は下振れ
- 加えて、一時費用が発生し、営業利益下振れ

レンズ交換式デジタルカメラ (万台)

市場規模	620	640	672
ニコン	80	85	85
交換レンズ (万本)			
市場規模	987	1,000	1,042
ニコン	125	135	131

* Mark Roberts Motion Control社：2016年に買収。主な事業内容は、映像機器のロボット制御ソリューションに関する装置の開発、製造、販売およびレンタル

2025年3月期 通期：精機事業



FPD露光装置販売台数 (台)

市場規模 (CY23/24)	46	58	58
----------------	----	----	----

ニコン	16	38	38
-----	----	----	----

半導体露光装置販売台数 (新品/中古、台)

市場規模 (CY23/24)	520	600	625
----------------	-----	-----	-----

ニコン	31/15	18/10	18/10
-----	-------	-------	-------

- 前年比：売上収益 ▲174億円、営業利益 ▲136億円
- 前回予想比：売上収益 +69億円、営業利益 ▲75億円

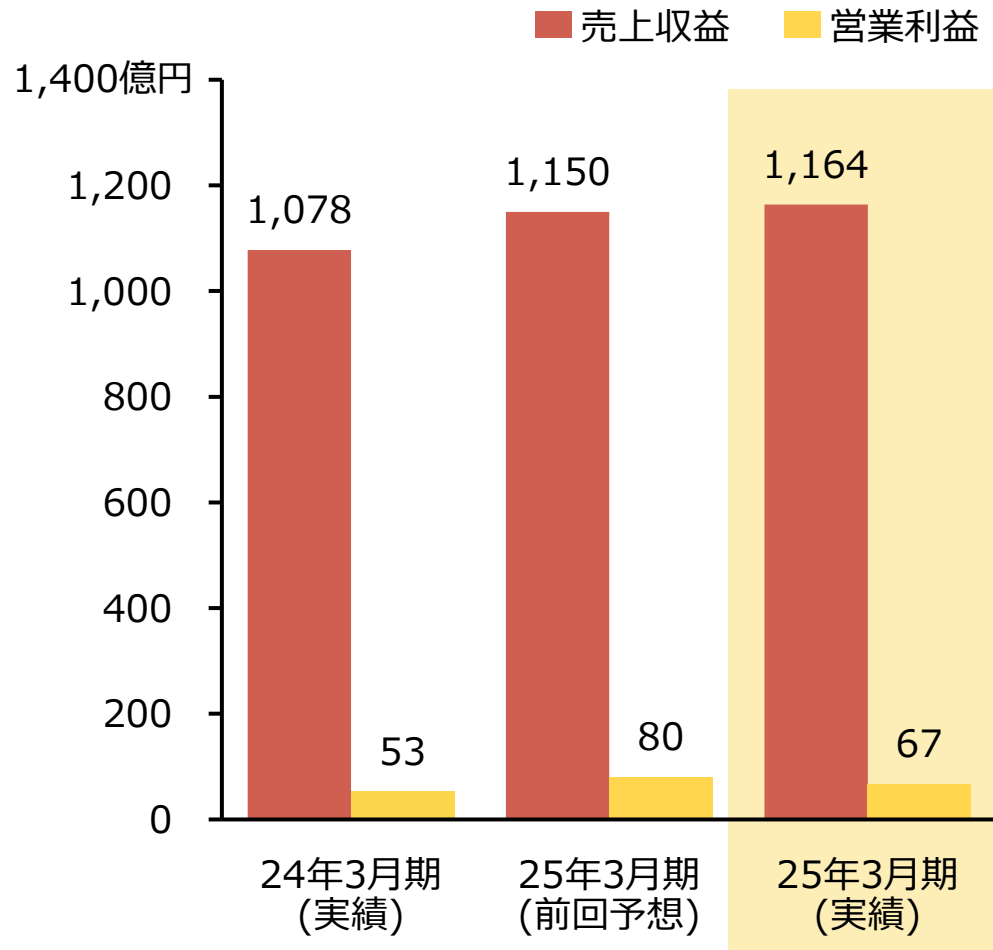
【前年比】

- FPD装置事業は高精細パネル向け装置の販売台数が増加した一方、半導体装置事業は新品装置の販売が減少し、精機事業全体では減収
- 半導体装置事業は、主要顧客の投資計画の変更・半導体市況の回復の遅れに伴い、将来計画を見直し
- 将来計画の見直しの結果、一時費用（141億円：固定資産減損損失、棚卸資産評価損やサービス拠点最適化のための構造改革費用）を計上し、減益

【前回予想比】

- 売上収益は、サービス収入の増加等で上振れ
- 一時費用の発生（上記内容）により、営業利益は大きく下振れ

2025年3月期 通期：ヘルスケア事業



● **前年比：売上収益 +86億円、営業利益 +14億円**

● **前回予想比：売上収益 +14億円、営業利益 ▲13億円**

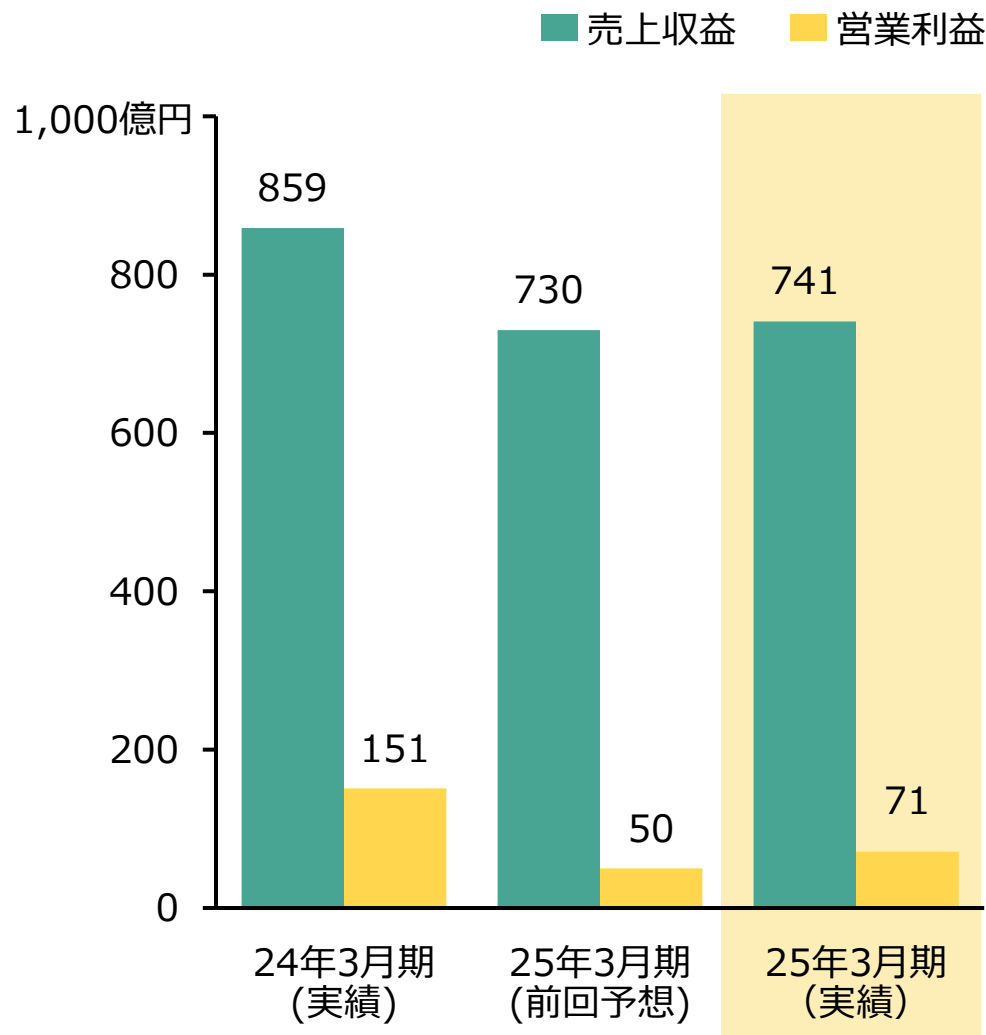
【前年比】

- ライフサイエンスは、欧米・中国での市況停滞により売上が低迷した一方、円安効果やアイケアの堅調な販売に加え、細胞受託生産では順調にプロジェクトが進み、事業全体で増収
- 調達コストの上昇や先行投資の一方、増収効果により増益

【前回予想比】

- ライフサイエンスは受注回復するも販売は未達。一方、アイケアの販売伸長や円安効果により、事業全体の売上収益は上振れ
- ライフサイエンスの販売下振れや旧製品の廃棄処分の影響をアイケアの販売上振れや経費抑制で打ち返せず、営業利益は下振れ

2025年3月期 通期：コンポーネント事業



- **前年比：売上収益 ▲118億円、営業利益 ▲80億円**
- **前回予想比：売上収益 +11億円、営業利益 +21億円**

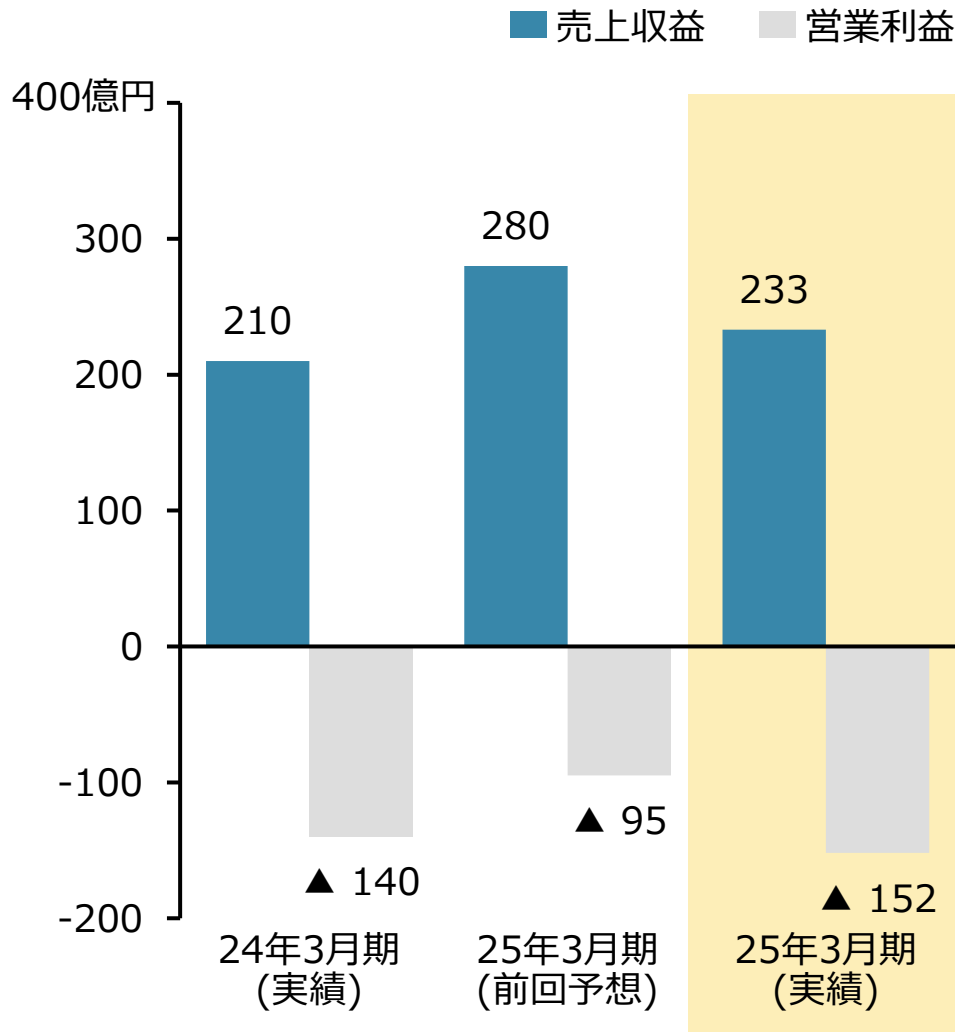
【前年比】

- 航空宇宙向けX線/CT検査装置の販売が伸長も、EUV関連コンポーネントや光学部品・光学コンポーネント、エンコーダの販売減少を打ち返せず、減収減益

【前回予想比】

- 売上収益は、概ね予想通り
- 営業利益は、原価低減や経費抑制に加え、インダストリアルソリューションズ事業（旧産業機器事業）の構造改革費用が想定を下回り（計画25億円に対し、実績18億円）、上振れ

2025年3月期 通期：デジタルマニュファクチャリング事業



- 前年比：売上収益 +23億円、営業利益 ▲12億円
- 前回予想比：売上収益 ▲47億円、営業利益 ▲57億円

【前年比】

- 金属3Dプリンター市場は、中小型装置市場を中心にやや縮小
- 当社は、注力する航空宇宙・防衛領域を中心に大型PBF装置* (NXGシリーズ) の需要拡大。SLM社の売上の過半を占めるNXGシリーズの売上は、前年比33%の増収を記録。この内、宇宙・防衛領域での販売が約75%を占める
- 増収効果や前年の一時費用の剥落（18億円）があったものの、中小型PBF装置*の生産数量低下による生産コストの上昇や米国拠点の整備、研究開発等の先行投資の増加により減益

【前回予想比】

- 売上収益は、大型PBF装置*の販売の一部繰延や中小型PBF装置*とDED装置*の販売が計画を下回ったことにより下振れ
- 装置販売台数減少に加え、中小型PBF装置*の生産数量低下による生産コストの上昇、物流費等の経費の増加により減益

* PBF装置：SLM社で製造するPowder Bed Fusion方式の金属3Dプリンター
DED装置：ニコンで製造するDirect Energy Deposition方式の金属3Dプリンター

注：24年3月期実績はセグメント変更による組み替え後の数値。セグメント変更については41ページ参照

注：25年3月期のSLM社買収に伴う無形資産償却費：38億円

1. 2025年3月期 決算報告

2. 2026年3月期 通期見通し

2026年3月期 通期見通し：ポイント

売上収益
7,100億円

- **前年比：▲52億円**
 - コンポーネント事業・デジタルマニュファクチャリング事業において増収となる一方、為替の円高影響や精機の半導体装置事業の減収により、全社では前年並みの売上収益を見込む

営業利益
360億円

- **前年比：+336億円**
 - コンポーネント事業・デジタルマニュファクチャリング事業における増収に伴う増益に加え、前年に発生した一時費用**（272億円）剥落、遊休資産の売却、研究開発費の削減、構造改革効果により、大きく増益を見込む

当期利益*
300億円

- **前年比：+239億円**

1株当たり配当
50円

- **前年同額の年間配当金50円**（中間配当金25円、期末配当金25円） 予定
 - 中期経営計画最終年度の目標値から修正。詳細は14ページ参照

為替前提

- **USドル：145円、ユーロ：155円**

米国関税影響

- **不確実性が高いため、今回の見通しには織り込んでいない**
現時点では、営業利益の影響額として約100億円を見込む

中期経営計画期間中の「株主還元方針」見直し

各年度の株主還元

	23年3月期	24年3月期	25年3月期	26年3月期
中期経営計画期間 (4年間)				
1株当たり配当	45円	50円	変更前 55円 → 変更後 50円	変更前 60円 → 変更後 50円
	期末 25円 中間 20円	期末 25円 中間 25円	期末 30円 中間 25円	年間 60円 年間 50円
自己株式取得	300億円 <small>(発行済株式数の5.7%相当)</small>	—	300億円* <small>(発行済株式数の5.4%相当)</small>	—
総還元性向	102.0%	53.2%	765.8%	54.8% (予想)

中期経営計画期間中の累積株主還元

	目標	見通し
資本配分	配分可能原資累計約7,500億円の 10%以上	配分可能原資累計約8,000億円の 約15%
総還元性向	40%以上 (安定配当 + 機動的自社株式取得)	111.3%

25年3月期以降の1株当たり配当は年間50円に据え置き

* 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応として、追加で300億円の自己株式取得を実施

2026年3月期 通期見通し：財務ハイライト

単位：億円	25年3月期 実績	26年3月期 見通し	前年比	
			増減額	増減率
売上収益	7,152	7,100	▲52	▲0.7%
営業利益	24	360	+336	+1386.6%
営業利益率	0.3%	5.1%	+4.8P	
税引前利益	45	400	+355	+782.4%
税引前利益率	0.6%	5.6%	+5.0P	
当期利益*	61	300	+239	+390.0%
当期利益率	0.9%	4.2%	+3.3P	
ROE	0.9%	4.7%	+3.8P	-
EPS	17.86円	91.23円	+73.37円	-
年間配当	50円	50円	±0円	-
為替：USドル	153円	145円	売上収益への予想影響 ▲251	
ユーロ	164円	155円	営業利益への予想影響 ▲65	

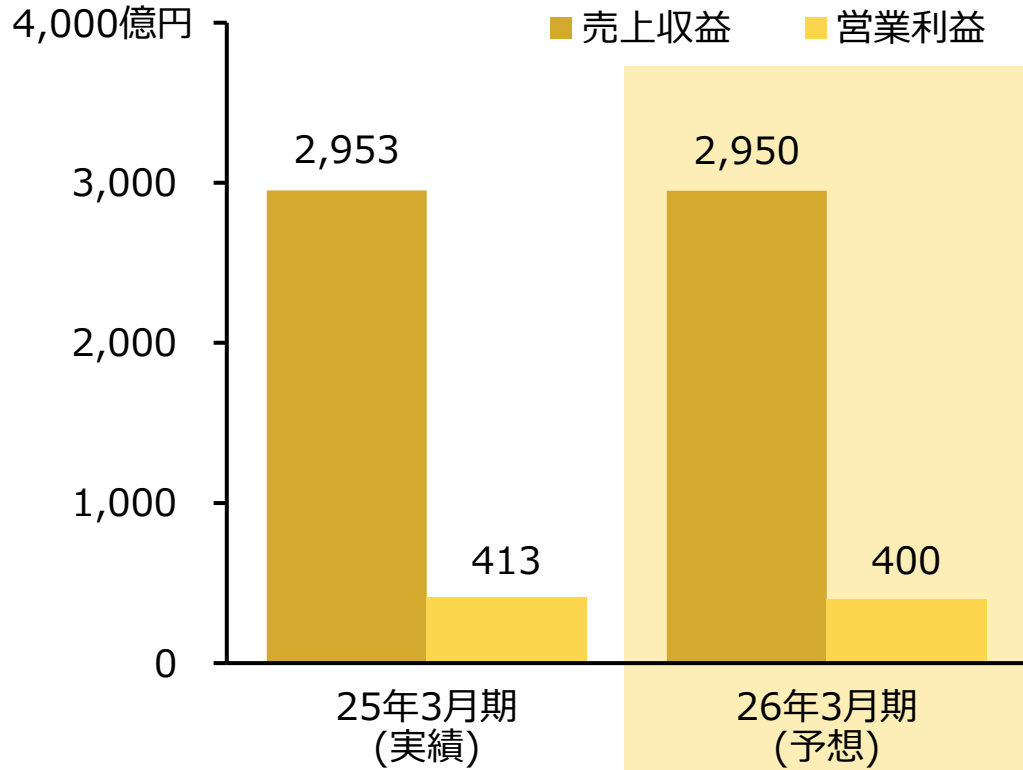
* 親会社の所有者に帰属する当期利益
注：予想EPSの前提となる発行済株式数：約328.8百万株

2026年3月期 通期見通し：セグメント別

単位：億円		25年3月期 実績	26年3月期 見通し	前年比	
				増減額	増減率
映像事業	売上収益	2,953	2,950	▲3	▲0.1%
	営業利益	413	400	▲13	▲3.2%
	営業利益率	14.0%	13.6%	▲0.4P	
精機事業	売上収益	2,019	1,850	▲169	▲8.4%
	営業利益	15	120	+105	+677.2%
	営業利益率	0.8%	6.5%	+5.7P	
ヘルスケア事業	売上収益	1,164	1,150	▲14	▲1.2%
	営業利益	67	85	+18	+26.2%
	営業利益率	5.8%	7.4%	+1.6P	
コンポーネント事業	売上収益	741	790	+49	+6.6%
	営業利益	71	100	+29	+39.2%
	営業利益率	9.7%	12.7%	+3.0P	
デジタル マニュファクチャリング事業	売上収益	233	330	+97	+41.3%
	営業利益	▲152	▲85	+67	-
	営業利益率	▲65.2%	▲25.8%	+39.4P	
その他 (含、全社費用等)	売上収益	40	30	▲10	▲25.3%
	営業利益	▲391	▲260	+131	-
連結	売上収益	7,152	7,100	▲52	▲0.7%
	営業利益	24	360	+336	+1386.6%
	営業利益率	0.3%	5.1%	+4.8P	

拠点再整備に伴う前期一時費用の剥落や遊休資産の売却、研究開発費の削減により全社費用等は減少

2026年3月期 通期見通し：映像事業



● 前年比：売上収益 ▲3億円、営業利益 ▲13億円

- レンズ交換式デジタルカメラ市場は引き続き堅調に推移すると予想
- Z9の先進技術を展開したボリュームゾーン（新製品Z5IIや好調なZ50II）を中心に販売数量の増加を見込むものの平均販売単価は低下し、売上収益は前年並みを見込む
- 為替の円高影響もあり減益

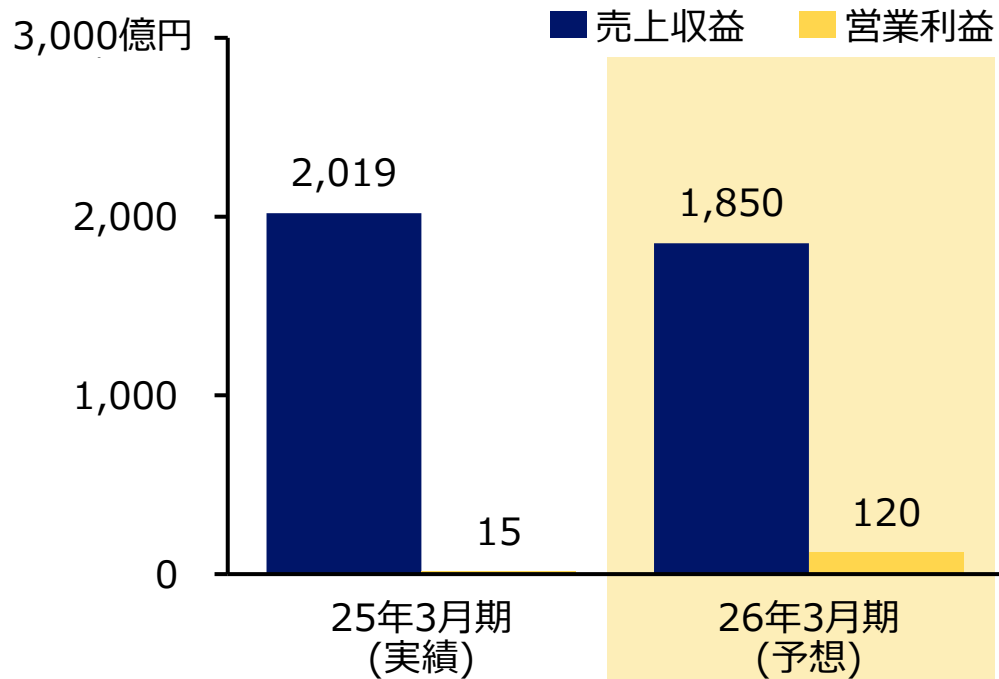
レンズ交換式デジタルカメラ（万台）

市場規模	672	670
ニコン	85	95

交換レンズ（万本）

市場規模	1,042	1,000
ニコン	131	140

2026年3月期 通期見通し：精機事業



FPD露光装置販売台数 (台)

市場規模 (CY24/25)	58	70
ニコン	38	35

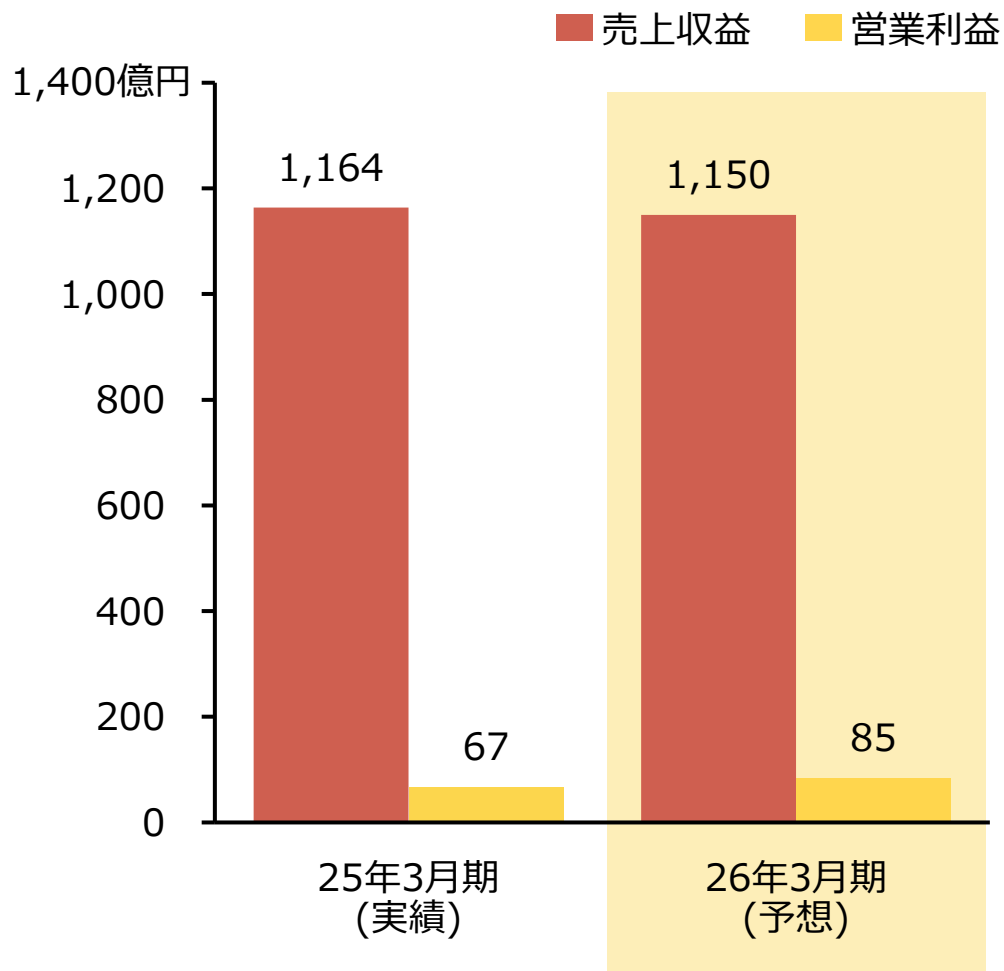
半導体露光装置販売台数 (新品/中古、台)

市場規模 (CY24/25)	625	570
ニコン	18/10	27/7

● 前年比：売上収益 ▲169億円、営業利益 +105億円

- 新品ArF露光装置の販売台数減少やサービス収入の減少により、減収
- 営業利益は、FPD装置事業の製品ミックス良化による平均販売単価向上、半導体装置事業の前期一時費用の剥落やサービス拠点最適化による収益性の向上もあり、増益を見込む
- 半導体装置事業では、今後の顧客の動向を見極め、生産・サポート体制のスリム化を進め、損益分岐点を引き下げる
- 一方で、将来に向けた開発（主要半導体メーカーとのArF液浸露光装置共同開発、後工程向けデジタル露光装置開発）を継続し、2030年前後での大幅な収益回復を目指す

2026年3月期 通期見通し：ヘルスケア事業



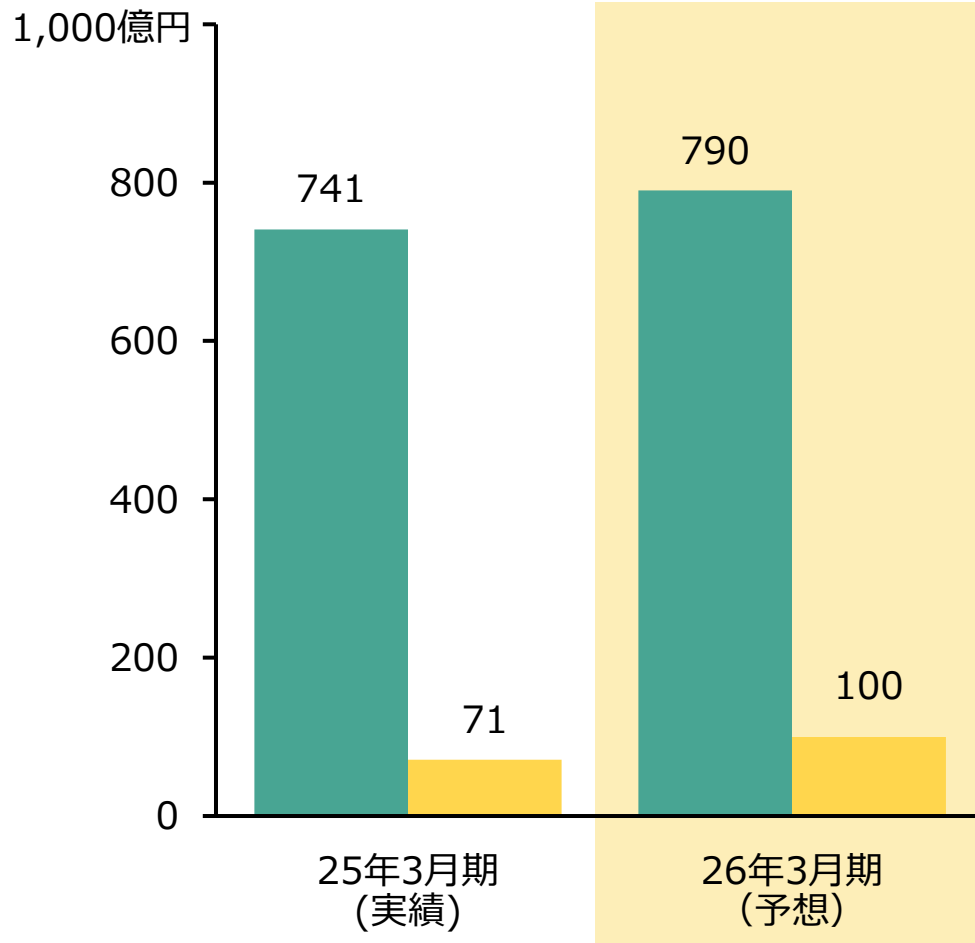
• 前年比：売上収益 ▲14億円、営業利益 +18億円

- ライフサイエンスは、収益性改善を目指し、高付加価値製品の拡販を見込む
- アイケアは、中国市場の低迷懸念があるものの、欧州での検眼医チャネル開拓や、アジアなど他地域での市場開拓により、前年並みの売上収益を目指す
- 細胞受託生産は、事業拡大に伴う先行投資を計画するが、既存プロジェクトが好調に進み、安定した売上収益及び営業利益の確保を見込む
- 全体として堅調だが、為替影響による減収を見込む
- 前年並みの一時費用（調査費用など20億円）を見込むが、ライフサイエンスでの収益性改善に加えて、販管費の適正化による増益を計画

注：25年3月期の一時費用は20億円。26年3月期は20億円を見込む。一時費用の主な詳細は決算短信31ページ（偶発負債）参照

2026年3月期 通期見通し：コンポーネント事業

■ 売上収益 ■ 営業利益

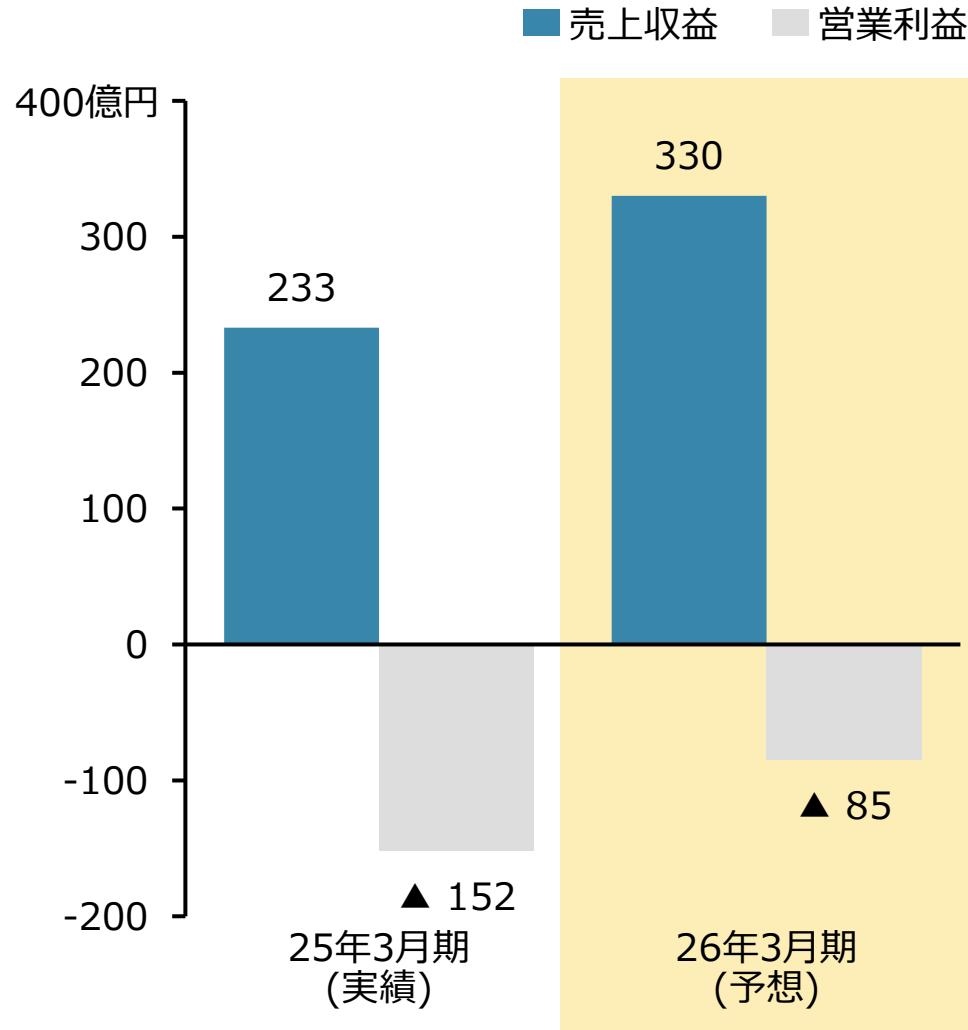


● 前年比：売上収益 +49億円、営業利益 +29億円

- 光学部品・光学コンポーネントは顧客拡大を継続的に進め、26年3月期下期の市況回復による販売増加を見込む
- 測定機器分野では、電子部品・半導体向け画像測定システムおよび航空宇宙向けX線/CT検査装置は販売増加を見込む
- FPDフォトマスク基板は、高精細パネル向けの需要増加を見込む
- 増収効果に加え、前年発生した構造改革一時費用（18億円）の剥落と構造改革による収益性向上により、増益を見込む

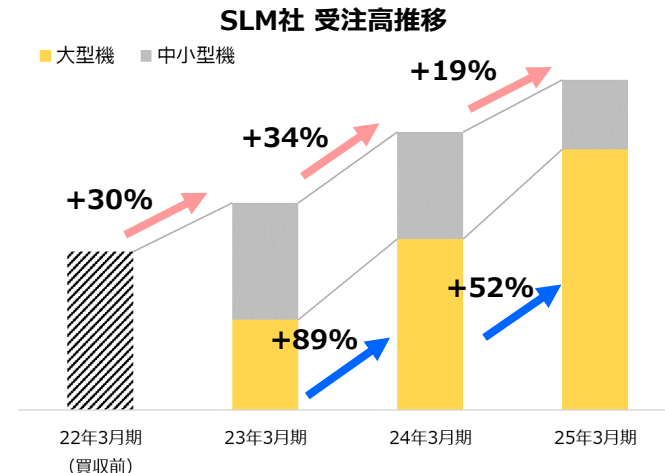
2026年3月期 通期見通し：デジタルマニファクチャリング事業

● 前年比：売上収益 +97億円、営業利益 +67億円



【前年比】

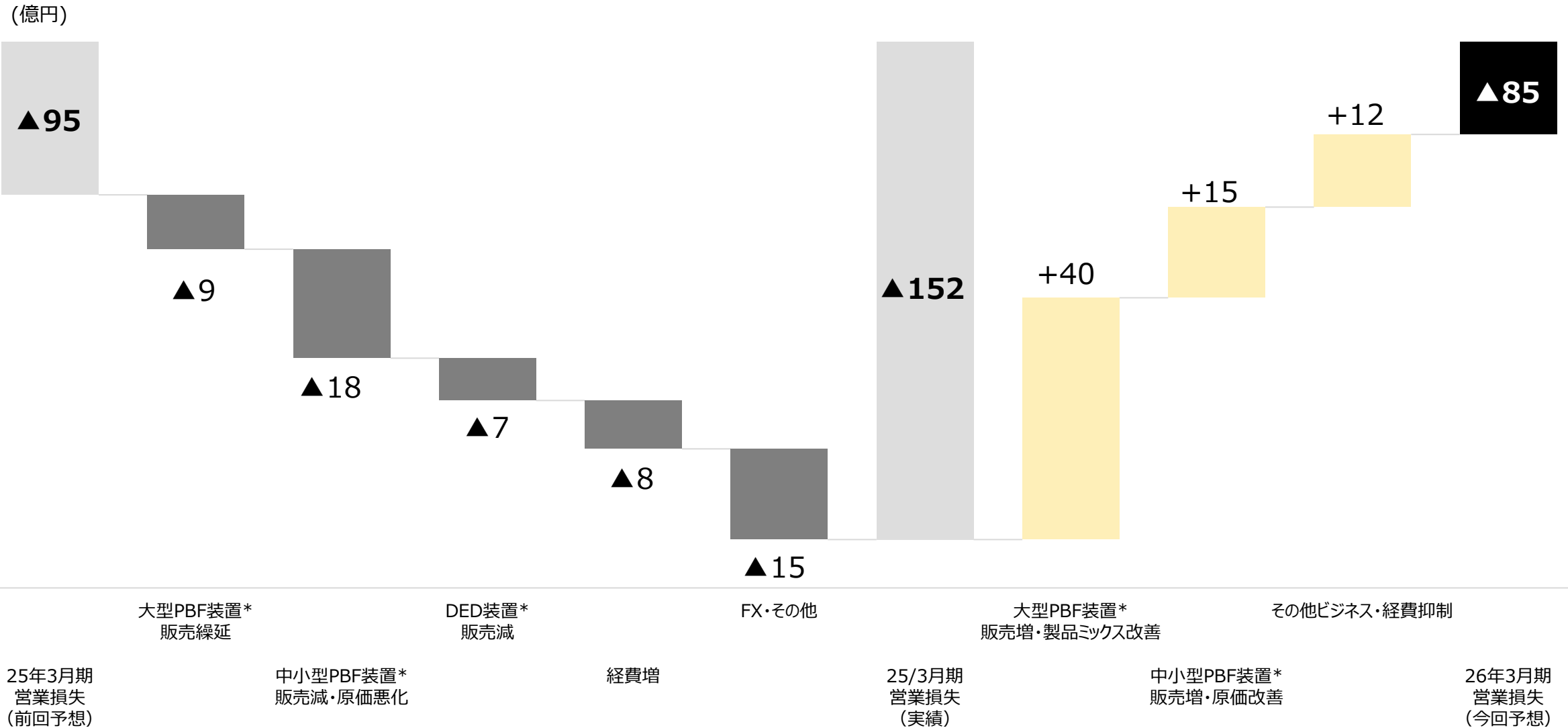
- 金属3Dプリンター市場は、中小型装置を中心に低調で横ばいの見通しも、大型装置市場は引き続き需要が拡大すると見込む
- 25年3月期のSLM受注高は前年比19%増加し過去最高を記録。大型PBF装置*の受注（前年比52%増）が牽引、同期末時点の受注残高は135億円
- 航空宇宙・防衛領域を中心に大型PBF装置*の更なる販売拡大を目指す。売上拡大に加え、生産体制の最適化や経費抑制、研究開発の優先順位の明確化等の経営最適化を進め、収益率改善を図る
- SLM社は26年3月期の黒字化、事業全体では当初計画から1年遅れの28年3月期の黒字化を目指す



* PBF装置：SLM社で製造するPowder Bed Fusion方式の金属3Dプリンター

注：26年3月期のSLM社買収に伴う無形資産償却費見込額：36億円

デジタルマニュファクチャリング事業：営業利益の変動要因



* PBF装置：SLM社で製造するPowder Bed Fusion方式の金属3Dプリンター
DED装置：ニコンで製造するDirect Energy Deposition方式の金属3Dプリンター